令和３年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日　時】	令和３年７月２日（火）　18 時 30 分　～　19 時 30 分
【場　所】	原ふれあいセンター
【出席者】	○篠﨑市長 ○地区代表者　４名 原地区コミュニティ協議会会長　：金重　和義 原地区人権教育推進委員協議会会長　：西村　由美子 原地区民生児童委員協議会委員　：松永　和代 新開作東自治会会長　：礒部　隆嗣 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○政策調整課 ○事務局（広報広聴課）
【概　要】	1　開会 2　参加者自己紹介 3　市長あいさつ 4　意見交換・懇談 5　閉会

【意見交換・懇談】

○梅田川の橋梁改良について

【コミュニティ協議会会長】

・梅田川の橋梁改良にとりくんでほしい。

【市長】

・梅田川の橋の拡幅について、橋の前後の道路が狭いため、橋だけを広げることは現時点では出来ない。橋の修繕については、地域の了解が得られたので、来年に予算計上して取り組んでいきたい

○コミュニティタクシーの毎日運行への助成について

【コミュニティ協議会会長】

・毎日運行への助成を検討してほしい。

・今年１０月から運行時間の変更と週２便を４便にする予定であり、タクシー会社に、車両を現行の乗用車タイプから介護タクシータイプに車両に変更してもらえるよう要望している。

【市長】
・毎日運行については、固定費が上がってくるので、交通政策グループに地区ニーズなどを把握させ、一番安定するバランスで運行させてほしい。
・週４便に変更することで新たな課題もでてくると思う。取組結果については、ぜひ、市と情報共有していただきたい。

○子育て支援や家庭支援に関する各制度について
【人権教育推進委員協議会】
・市の訪問型家庭教育支援員（子ども笑顔サポーター）として、家庭の支援を行っている。毎月、関係の学校長やスクールソーシャルワーカー、市教育委員会と、情報共有、不登校等の支援策を話しあい、必要であれば家庭訪問や本人・家族との面談を行っている。
・貧困家庭が多いため、「うべおたすけまんぷく便」や「フードバンク」、「制服の譲渡」などの取り組みは今後も継続して欲しい。
・このような活動はスクールソーシャルワーカーと一緒に取り組んでいるが、圧倒的に人数が少ない。市内全域で行っていくつもりなら増員をお願いしたい。
【市長】
・「うべおたすけまんぷく便」や「フードバンク」、「制服の譲渡」は今後も継続する。
・子どもの貧困対策の計画を策定予定である。
・スクールソーシャルワーカーについては、活躍するためのスキルを培ってほしい。なり手を増やしていかなければならないと考える。
・日本財団と連携し、ＮＰＯ法人ふらっとコミュニティが実施しているアウトリーチ型の支援の手法を、市職員や地域団体もできるように平準化する取組みを進めている。
・学校組織に対応できない子どももいるため、フリースクールに通う子どもへの支援を検討している。

○若者世代の定住促進について
【人権教育推進委員協議会】
・原校区の３割以上が高齢世帯で若い世代が定住していない。地元企業に就職し実家から通勤する若者や三世代同居、近居に対する、何か優遇措置はできないか。
【市長】
・今年の夏から子どもの医療費について所得制限付きであるが無償化にした。
・三世代同居や近居への優遇措置等は、一つの手法として考えられる。若者定住の観点から、すでに今、宇部にいる方に、そのまま住み続けてもらえる取組みとして参考にさせてほしい。
・今年の秋から、中学２年生を対象に、地元にどんな仕事があるのかを紹介し、宇部市で、どのような人生を送れるのかを考えられるプログラムを開始する。

○子どもの通学路の安全確保について

【民生児童委員協議会】

・流川交差点から市道妻崎中原線に接するまでの市道流川線の歩道が狭い。一部グリーンベルトが整備されているが、過去に子どもと車の接触事故があり危険である。湾岸道路が整備されたために、地区内の狭い道路を抜け道として通行する車両が多い。子どもが安全に通行できるよう歩道を確保してほしい

・岡田屋から国道を渡る地下道の照明が暗く、改善の提案をしたが、既に照明が明るくなっており改善された。

【市長】

・グリーンベルト箇所の土地買収ができないため、拡幅が困難である。そのため、反対側にグリーンベルトの設置を検討したい。都市整備部から地区に相談させていただき、安全が確保できるのであれば進めていきたい。

・抜け道利用が多いのであれば、「ゾーン３０」の検討も可能であるが、地元の皆さんも不便になるので、今後相談していきたい。

○即時避難ができる緊急避難場所の設置について

【新開作自治会】

・昭和１７年の周防灘台風での堤防決壊等により甚大な被害を受けた。近年の異常気象からみる災害想定としては、集中号豪雨による中川の氾濫や厚東川上流の堤防決壊による大規模な浸水被害である。

・南海トラフ地震による津波被害も想定される。

・地区内には高齢者世帯が多く、緊急避難場所に避難するには１km 以上の距離があり、また、増水箇所を横断する必要があり大変危険である。一時的に避難できる場所を設置してほしい。

【市長】

・防災危機管理課と協議した結果、土手町エリアは、災害時に安全を確保できる場所がないため、緊急避難場所の設置は困難である。緊急時は、速やかに情報を発信し、地区の皆様が少しでも早く避難できる体制をとることができるよう取組みたい。ただ、いざという時には一時的に土手に避難することも可能性としてあると思われるので、改めて地域の皆様と防災危機管理課とで相談させていただきたい。

○原ふれあいセンターについて

【市長】

・令和３年３月、公共施設等個別施設計画を策定した。この計画で原ふれあいセンターは、建築から４５年を目途に施設の劣化状況等をみて長寿命化に取り組むこととしている。原ふれあいセンターでは令和４～６年で建物の状況を把握し、長寿命化等の取組を進めていきたい。

【コミュニティ協議会会長】
・原ふれあいセンターは増築の繰り返しであり、増築の継ぎ目箇所からの雨漏りがあるため早急に対応していただきたい。・
・高齢者や障害者に配慮してスロープを設置して欲しい。
・図書室は、子どもたちが多く利用しているため、エアコンを設置してほしい。
【市長】
・雨漏りについては、すぐに調査し対応する。
・スロープについては新たな要望として、これから検討する。
・図書室のエアコン設置については、他地区との調整もあるため、ご意見としてしっかり把握させていただく。

【市長】
・貴重な時間を共有させていただいたことに感謝する。
・市政懇談会を 4 月から始めたが、地域課題を解決していくためのきっかけ作り、スタートになったと考えている。
・今後も懇談会を開催し、話し合いを通じて、まちづくりを進めていきたい。